

今回は、冬の円山動物園で見られる動物の変わった行動をご紹介します。

## ゾウの花子の雪浴び!!



1

円山動物園にいるインドゾウの花子は、屋内の飼育場を掃除するため、午前中は寒い冬でも毎日、外に出しています。

その時、雪の積もった場所へ鼻を伸ばして雪をすく、自分の頭や背中にかけてやることも!

2

野生のゾウは、強い日光から身を守ったり、皮フに付いた寄生虫を払い落とすため、自然の中でも水や砂、泥をあびる行動を見せます。

花子の場合、雪以外にもエサの青草や乾草を体にくっつける行動が見られます。

けれども、雪をかけるのは、遊びなのか、皮フを守るためなのか、本当のところは花子にしか分かりません。



## 世界のクマ館で冬眠??



1

円山動物園では、7種類のクマが飼われています。

その中のアメリカクロクマのメスは、雪が降り始めると、雪の上でじっとしてしまい、飼育係がそれまでと同じようにエサを与えますが、大好きなリンゴにも見向きもせず1週間も動かないで、ついには雪が積もって姿が見えなくなることもあります。

心配になった飼育係が棒でつつくと、のっそり動いて生きているのがようやく分かるほどです。(今年はどうかな?)

2

野生のクマの一部は、秋に食べ物をたくさん食べて体に栄養をつけ、食べ物のとぼしくなる冬は穴の中でじっとして、春を待ちます。

皆さんは「冬眠」と思いますね?

大人のメスのクマは、穴の中で出産、子育てをしているので、冬眠というより、「冬ごもり」と言った方がいいかもしれません。

どちらの場合でも、クマにとってはかなり体に負担がかかることです。

円山動物園のアメリカクロクマは、野生の本能で眠りこもっているのかもしれませんが、不思議なことですね。

